



箕面小だより



箕面市立
箕面小学校
令和6年(2024年)
1月号

学校教育目標
めざす子ども像
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

「評価」と「評定」

校長 垣内 幸太

このたび、令和6年能登半島地震により亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、一人でも多くの命が救われることを心より願っております。平和でだれもが幸せに過ごせる新たな年となるとともに、ご家庭の皆様、地域の皆様にとってよい年になりますよう心より祈念いたします。本年もよろしくお願いいたします。

さて、学期末に配布した「あゆみ」。その中身を見て、子どもたちは一喜一憂します。みなさんは、どんなお声をかけていただいたでしょうか。

子どもたちの今の頑張りを表すための言葉として「評価」「評定」という言葉があります。この二つの言葉、辞書などで調べると、その意味は…

評定…一定の基準に従って価値・価格・等級などを決めること

評価…ある物事や人物について、その意義・価値を認めること

とあります。似ているようですが、「一定の基準(ライン)があるかどうか」「決めるのか認めるのか」という点が異なります。「あゆみ」は、そこに「よくできる、できる、がんばろう」などの一定のラインがあり、各項目においてどこにあたるかが決められています。つまり「評定」です。

一方、評価は、本来の意味で考えると、目標に向けてどの程度到達したかを認めることです。そこに一定のラインはありません。ついついわたしたちは、どの子も同じように一定のラインまでたどりついたかのみで評価してしまいがちです。しかし、子どもたちの力を育てていくためには、テストの点数や成績といったある一定のラインへの到達をみとる評定(「できた・できない」「わかった・わからない」)だけでは不十分です。子どもたちの日々の変化に対して、なるべく多くの評価をすることが不可欠です。「昨日より、集中力がすごかったね」「今の考え方いいね」「この方法はもっと工夫できそうだね」「いいアドバイスができたね」といった声かけでの評価やにことした顔や身振り手振りといった表情やポーズで評価することもできます。ただ褒めるだけではなく、励ましたり、課題を指摘したりすることも立派な評価です。

評価という言葉だけ聞くと、あまりよい印象を持ってないかもしれません。しかし、その子の中にある伸びや頑張りをしっかり認めてあげることと考えれば、子どもたちの成長に欠かせないものであることがわかります。我々大人の大事な役割のひとつなのではないでしょうか。

締めくくりの3学期、学校では刻々と変化する子どもたちの姿をしっかりみとり、子どもたちのよりよい成長につながる「評価」ができるように研鑽を積んでまいります。ご家庭や地域の方々の変わらぬご協力、ご支援、引き続きよろしくお願いいたします。

